

板橋イナリ通り商店街／東京都板橋区

1. 取り組みの概要について

住・工・商が混在している地域の特性を活かし、商店街が町会、企業、教育機関、行政と連携し、地域資源（人・もの）の活用により、地域の魅力を発信するツールを整えたり、空き店舗を活用した地域のコミュニティ拠点（地域ふれあいステーション「コン太村（ゲーム博物館・駄菓子屋・お休み処）」の創設、企業や JOC ナショナルトレーニングセンター等と連携したイベントの実施に取り組んでいる。

2. 商店街概要

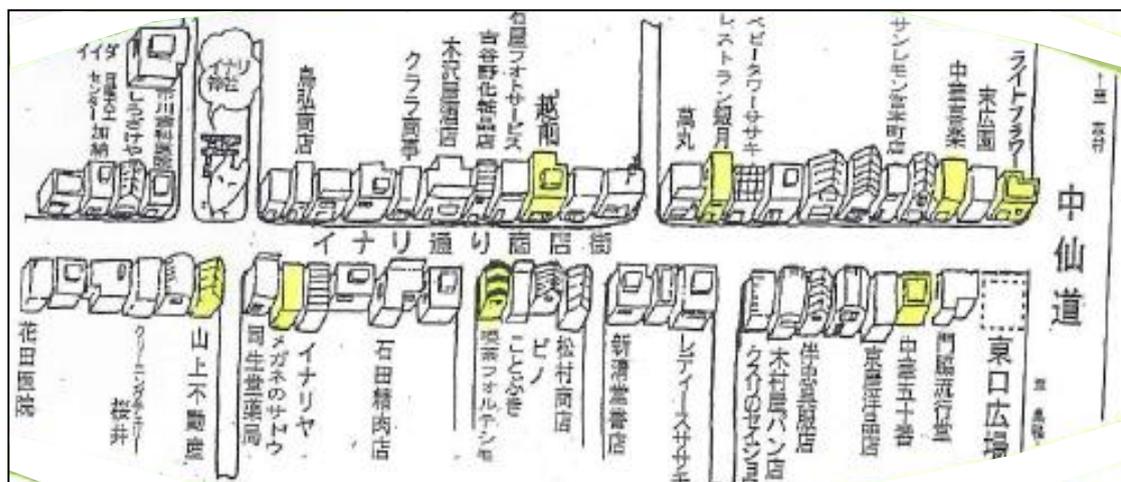
商店街名	板橋イナリ通り商店街
所在地	東京都板橋区宮本町
会員数	25店舗
URL	http://www.inari-st.jp



【板橋イナリ通り商店街】



【商店街内にある清水稲荷神社】



【板橋イナリ通り商店街 MAP】

3. 取り組みに至る経緯・背景

(1) 板橋イナリ通り商店街を取り巻く環境

板橋イナリ通り商店街は、都営三田線「板橋本町」「本蓮沼」両駅から徒歩約5分の中山道清水町交差点のところに位置している30店舗足らずの小さな商店街である。

商店街の中心には、商売繁盛、家内安全、子育ての地域の氏神様である清水稲荷神社があり、周辺は、用途地域が準工業地域と呼ばれている住工混在の地域である。

工場の移転、廃業により跡地が、マンションや分譲戸建住宅に転用されるようになり、住居系の色彩が濃くなりつつあるが、現在も、世界ブランドを持つエスビー食品(株)、リンテック(株)、(株)タニタ、柳沢管楽器(株)、望遠鏡「タカハシ」の(株)高橋製作所などの企業の他、先端技術の研究等でワールドワイドに展開している中小企業などが多く存在している。また、北区にも隣接しており、産業技術研究センター、JOC※1 ナショナルトレーニングセンター、西が丘サッカー場等へのアプローチも5分～10分程度のところに立地している。

(2) 商店街の課題とその対応

板橋イナリ通り商店街は、上記でもあるように、住・工・商が共存している地域にある。かつては、周辺の町工場に働く人たちなどで賑わい、活気に満ちていたが、現在は後継者難もあり、空き店舗が目立ち集客力のある魅力的な個店もないため、足を運ぶ人が少なくなってきた。地域の安心・安全に大きな役割を担っている企業や商店の減少は、地域全体の課題として捉える必要があると商店街では考えた。

また、町会を中心とした古くからのコミュニティが残る地域であるが、新築マンション等に地域外からの住民も多く入ってきており、新しい住民との相互理解も求められていた。

このような状況をふまえ、商店街では町会、企業、教育機関、板橋区と連携して「いたばし ii (アイアイ) プロジェクト※2」を起し、東京都の地域連携型モデル商店街事業に応募し、その指定を受け、地域資源(人・もの)を活用した取り組みを展開するに至った。

※1 JOC: 日本オリンピック委員会の略

※2 「いたばし ii (アイアイ) プロジェクト」の ii (アイアイ) は、「行きたい街 板橋イナリ通り商店街」の頭文字の略である。

4. 取り組み内容

(1) いたばし ii プロジェクト事業の目標と協議会の構成

板橋イナリ通り商店街と、町会、小学校・中学校、PTA、地元企業、板橋区等の関係者からなる協議会を立ち上げ、次の3つの事業目標を実現するための企画検討と活動を行った。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">①地域の魅力を地域内外に情報発信②コミュニティの核としての機能を持った魅力ある個店の創出③地域連携による協働イベントの実施 |
|---|

②コミュニティの核としての機能を持った魅力ある個店の創出

地域ふれあいステーション「コン太村」の開所

◆コン太村の概要

平成 21 年 3 月 8 日に、商店街の空き店舗を活用し、商店街直営の地域ふれあいステーション「コン太村」を開設した。

コン太村は、ゲーム博物館、駄菓子屋、お休み処を兼ねた交流拠点で、その特徴は、地域の手づくりでの開所となった点にある。

元薬局の店舗を改装したものだが、内装の壁紙はデザインを東京家政大学の学生が行い、地元企業のリンテック(株)が製作・寄贈した。ファサードの木看板は ii プロジェクトのメンバーが担当した。

市民の交流機能にも力を入れており、館内には、昭和レトロなゲーム機 30 台や駄菓子を備えるとともに、地元企業の商品紹介コーナーも設けている。壁紙にはプロジェクトメンバーの幼少時のモノクロ写真があしらわれて、昭和レトロを親しみ深く演出している。

◆運営の特徴

コン太村の運営は、当初の計画では地域の敬老会に管理を任せようと考えていたが、平成 17 年に板橋区の空き店舗活用コンテスト大賞事業「ゲーム博物館」を企画した地元の会社員・岸さん(10 円ゲームコレクター)が、ゲーム博物館を運営する場所を求めていたことから、コン太村の運営をまかせることとなった。なお、ゲーム機を多数設置するという一方で、商店街で風営法の許可を取っている。

◆開設までの資金

コン太村の改装費・家賃の一部は東京都と板橋区の助成金を活用している。

東京都と板橋区が 5 分の 2 ずつ、3 年間の家賃を 3 分の 1 ずつ助成している。家賃の助成がきれる 3 年後には駄菓子屋の収益による自立をめざしている。



【地域ふれあいステーション「コン太村」】



【昭和レトロ調の壁と 10 円ゲーム機】

③地域連携による協働イベントの実施

【JOC ナショナルトレーニングセンターとの連携イベント】

平成 20 年 1 月に北区西が丘にナショナルトレーニングセンターが開設されて以来、稲荷神社への参拝や商店街の飲食店で食事をする選手の姿を見かけるようになった。このことがきっかけとなり、商店街を中心に地域を上げて選手を応援するイベントを実施している。

実施イベント等

平成 20 年度

- ・ナショナルトレーニングセンター開設歓迎・北京オリンピック必勝祈願および懸垂幕除幕式
- ・ナショナルトレーニングセンターでの北京オリンピック事前合宿選手との交流
- ・ナショナルトレーニングセンター見学会&北京オリンピックメダリストとの交流会
- ・ナショナルトレーニングセンタースタッフの北京オリンピック祝勝会の開催
- ・北京オリンピック出場新体操選手らの稲荷神社必勝祈願初詣
- ・ナショナルトレーニングセンターでの餅つき&クラシック演奏会

平成 21 年度

- ・2016 年東京オリンピック・パラリンピック招致祈念提灯行列の実施
- ・東京オリンピック誘致応援
- ・「体育の日」中央記念行事へのボランティア参加
- ・将来のオリンピック選手の卵、スポーツアカデミー選手（レスリング選手）の稲荷神社必勝祈願

【地元企業との連携イベント】

実施イベント

- ・エスビー食品㈱「Spice&herB キッチンわくわくチャレンジ」（平成 20 年 8 月、平成 21 年 8 月）

ハーブに日（8 月 8 日）にちなんで、スパイスやハーブの楽しさ・おいしさを地域の子どもたちに知ってもらう体験イベントを実施

- ・志村第一小学校で、「子どもの城」の講師による展示会の作品づくり授業を実施（平成 20 年 10 月～12 月）

リントック㈱から派遣された渋谷区にある「子どもの城」の講師 2 名による、ペーパークラフト制作の授業が 10 月に志村第一小学校 5 年生を対象に実施。出来上がった作品は 12 月に展示会で、ブラックライトを利用して夜の森に見立てた作品として展示された。展示会終了後、子どもたちの作品は、商店街のお店で展示された。

【大学との連携イベント】

実施イベント

- ・東京家政大学とイナリ通り商店街飲食関連店舗の共同新メニュー開発（平成 21 年 3 月～4 月）

“健康・元気”をテーマに、東京家政大学栄養科の学生 15 名とイナリ通り商店街飲食関連 8 店舗が共同で、新しいメニューを開発した。

5. 取り組みによる成果

(1) 地域ふれあいステーション「コン太村」の成果

コン太村は、新聞やテレビ、雑誌取材、などが多数来ており、全国から愛好家や子ども、家族連れが訪れるようになっている。コン太村の効果で、商店街が広く認知されるようになり、区外からも多くの人を訪れるようになった。週末には一日 200 人以上が訪れる。

特に、10 円ゲームファンは、遠くから来て一日中商店街で遊ぶこともあり、商店街の食料品店は賑わっている。10 円ゲームファンがコン太村で交流会を行い、商店街の飲食店や酒屋、焼き鳥やなどの売上げに寄与している。



【コン太村に関する記事

／朝日新聞平成 21 年 4 月 15 日】

(2) JOC ナショナルトレーニングセンターとの連携の成果

商店街がオリンピック・オリンピック選手を支援する取り組みはマスコミからの取材もあり、東京オリンピック誘致の際も、商店街に多くのテレビ取材があった。そのことにより、地域でもオリンピックを応援する商店街として認知された。

定期的な商店街や地域と選手との交流は、商店街へ波及効果もある。JOC ナショナルトレーニングセンターで合宿している選手なども清水稲荷神社の祈願やトレーニングのあと、商店街の飲食店に多く来店するようになった。

(3) 地元企業等との連携の成果

地域にはエスピー食品、タニタ、リンテック、高橋製作所、柳沢管楽器などの優良企業が立地しているが、地域資源マップの作成や、いたばし ii (アイアイ) 通信、地域情報掲示板を通して、地元企業の存在が住民に周知することができた。

地元企業や大学との連携による地域行事、商店街イベントの開催が行われるようになり、地元企業も地元との交流を図るための独自イベントを開催するなど、地元との交流機会が増えている。

6. 取り組みにおける課題

いたばし ii (アイアイ) プロジェクトはコン太村の開所で終わり、開所後は ii プロジェクトの会合も開催頻度が減っている。今後どのように盛り上げていくか、次の事業展開を検討している。

オリンピック関連の事業としては、次のロンドンオリンピックに向けて企画を検討している。